

# 1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100452		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム 我家我家 (壱番館)		
所在地	岐阜県多治見市小泉町4-228		
自己評価作成日	平成21位年5月14日	評価結果市町村受理日	平成21年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100452&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100452&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人理事が主治医であり一人一人の健康状態を把握している</li> <li>・隣接している施設との交流がある</li> <li>・一人ひとりのペースを大切にしている</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームはNPO法人で、法人理事の医師により医療的健康管理が定期的に行われている。利用者の入居前からのかかりつけ医には、家族の都合が悪い場合の通院支援も有料であるが行っている。職員は、看護師、介護福祉士、精神保健福祉士、調理師等有資格者が多く、法人の応援もあり、資格取得にも積極的である。医療・福祉介護の協力機関が多く、利用者の暮らしを一体的に支援する仕組みがある。利用者一人ひとりを大切にする姿勢が全職員に見られ、ミーティングでも大切な課題として話し合っている。ホームの生活で落ち着いた生活を取り戻した利用者も多く、利用者職員共に笑顔がある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票(壱番館)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療・介護・生活のバランスのとれた運営」「残存機能の行使による認知症の予防」「生きる場所としての家の提供」を独自の理念とし、実践につなげている。	管理者と職員は、ケアするときは一人ひとりの利用者を自分の身内、自分だったらと意識付けし、残存機能の行使や楽しい生活の組み立てで、個々の生活を支える理念の実施に努めている。	理念にあげている利用者が地域の中で暮らす支援の実施には地域役員の方々の理解と認識の共有、協力が大切である。更には、運営推進会議を通して、の取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム敷地内に通学路があり、地域の子供達や住民の方との挨拶を日常的に交わすことにより親しみのある関係を作り上げている。	食材の買い物、日常の散歩、子供の通学路、福祉教育での学生訪問、事業所の夏祭り等多くの機会を作り、利用者が地域住民と出会うきっかけ作りに努めている。	ホームからの働きかけは積極的であるため、更には、近隣とのお付き合い、地域役員を通じての地域からの協力等が得られるように取り組まれることも期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小・中学校への学習の場としての提供や、資源回収の貢献等により、地域との関わりを大事にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た報告は、ミーティング等で話し合いをしサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は3～4ヶ月に1回開催されている。地域役員や行政、地域包括支援センター職員、利用者家族、ホーム関係者がメンバーとなっているが、実際の参加は職員や一部の家族に限られている。	利用者が地域の中で暮らすには地域の理解と協力が必要なため、ホームの運営状況や課題、行事案内や協力依頼等テーマを検討し、行政や地域の役員が参加しやすく日程調整し、2ヶ月に1回の開催になるよう取り組まれたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が開催する事業所会議等を通し行政との連携を密にすると共に、日頃から担当者との情報交換によって得られたものをサービスの向上に役立てている。	利用者のホーム利用にあたり、相談や連絡は細かく行っている。市主催の会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より鍵をかけない取り組みを実践しており、不穏時はスタッフが同行を見守りし気持ちが和らぐようにしている。	身体拘束、虐待については定期的に学習を行っている。利用者の安全への配慮から、人手の要る入浴介助時だけ施錠することはあるが、基本は開放的な環境を提供している。夜間の不穏時には共に過ごし、気分が落ち着くまで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なミーティングの開催や、同法人内での勉強会にて学ぶ機会を持っている。		

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや勉強会において日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、説明後であつても随時説明に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、意見箱といった機会を活用しミーティングで話し合うようにしている。	運営推進会議に参加する家族は限られているため、できるだけ家族のホーム訪問時や電話連絡時に、家族からの意見をたずねており、出された意見は会議等で検討している。	ホームたよりの発刊をきっかけに、ホームからの情報提供に加え家族からの意見をもらう様式を取り入れる等工夫を重ね、家族が意見を出しやすい環境づくりに取り組まれない。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや毎日の申し送り時に意見や提案を聞く場を設けている。	今年度より、年2回の職員の個別面談を計画し、第1回を行った。会議等で職員が意見を出しやすいように日常のコミュニケーションを図れるよう管理者・職員で共に取り組んでいる。出た気づきは幹部会議に報告し検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回の管理者会議や年2回の職員との面談において個々の職員の希望、意見等を理事に伝へやりがいのある職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会の他、定期的に法人内で広い分野のテーマで研修会が行われている。外部研修の費用は法人負担で、研修内容は報告会で共有している。又、職員の自己顕示意識も高く、専門資格取得者も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の認知症介護実践者研修等に参加等を行い得た情報を、素に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションに時間をかけ、意見・要望を把握し今後のケアへの役立へとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細な意見にも耳を傾け、相談の受け付けは随時実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討する事例が発生した際、御本人・御家族からの意見に親身に傾聴し、適切な解決方法を共に模索出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の気持ちを尊重し、人生の先輩として接することで介護・生活を通して支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来られる機会を増やし、御本人と御家族との絆を大切に、御家族と共に参加して頂ける取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人の面会や、一緒に食事をして頂いたり、これまでの関係が途切れない環境作り心掛けています。	これまでも利用者の友人の訪問があり、共に食事をしたり、ホームのレクリエーションを楽しんだり、現在も訪問が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握した席作りや、作業区分をし、適した活躍の場での支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時であっても面会に伺ったり、新たな担当者より情報提供をして頂き関わりを持つようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員には常に言葉使い、本人本位を念頭に置き、御本人の大切な想いを尊重した支援をするように指導している。	入居時に利用者や家族からの情報をできる限り収集し、個人の理解に役立てている。言葉が出ない、表現がうまくいかない場合も表情や態度から、快、不快を読み取るように本人本意を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの聴き取り、御本人からのお話等を生活の中の会話から把握し、職員同士が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを作成し、その方の現状に対し記録に残し、職員全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、入居後に御本人や御家族の意見を御聞きし、職員全員参加のケア会議で状態に基き話し合っって介護計画を作成している。	入居時に入居後の暮らし方の希望を確認し、その後も、ホームの生活の中で本人、家族、担当医師、職員から広く情報を集め、会議にあげ記録にも残して皆の共有情報とするよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の些細な事であっても、日常の気づきとして記録に残すようにし、工夫した事など次の実践に活かせる取り組みをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者が看護師で常時健康管理を行い、従来の掛かり付け医への受信希望者には通院支援をしている。また、隣接のショートステイとの連携により重度の利用者の入浴やレクリエーション等に柔軟に支援している。		

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の散歩での声かけ、小・中学校の学習の場の提供、公民館での行事の参加をし、地域とのなじみの関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医専門の法人理事を主治医に持っており月2回の往診があり体調管理を図っている。また、他医への受診は御家族の希望により職員が通院支援をしている。	法人の理事が全利用者の主治医であり、定期的な健康管理が行われている。他の医療機関への受診は家族が基本的に行うとしているが、都合が悪く支援が必要な場合は職員で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為常時、健康管理を行っており最速な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、御家族や病院の医師、ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行い早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においてその都度御家族等の要望を確認しながら医師をまじえた話し合いを進め、その結果を踏まえ対応していけるよう職員への共有を図っている。これまでに2人の看取りが行われた。	これまでに2名の看取りを経験している。家族や医師、職員で状態の変化に合わせて、方針を確認しながらケアを提供した。大きな混乱も無く職員の精神的支援も行えた。大きな混乱もなく、職員の精神的支援も行うことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し確認をすると共に、定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、利用者も参加した消防訓練を定期的実施している。運営促進会議を通じて地域の住民への協力も依頼している。	防災訓練は定期的開催し、利用者の誘導訓練も実施している。ホームへの消防車進入道路も確認済みで、避難空地は目前にあるが、地域からの協力が十分に得られる状態にない。	防災訓練は実施されているが、近隣の民家が接近していたり、屋敷周りには植え込みの木々も多い。災害時は地域との協力が大切になるため、運営促進会議を通し地域の協力が具体的な参加に結びつくよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉使いの他本人本位を念頭に置き利用者の大切な想いを尊重した支援を常に指導している。	職員が利用者一人ひとりを大切に接していることは、言葉使いやケアの様子から感じられる。男性としての誇り、女性らしさの整容を大切にと細かく配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物・散歩等日常生活の中で利用者の希望に添うよう努めると共に、「自分だったら」「親だったら」と本人の思いを出来る限り汲み取ったサービスが提供できるよう検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや利用者の体調に大きな支障が生じない範囲において利用者の「その人の時間」を大切にしながら見守り姿勢で支援している。夕食に飲酒を楽しむ利用者や、個人の携帯電話を所持使用する利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回ホームへ理容師の方がみえ御家族と御本人の希望を御聞きし、利用して頂いている。また、行きつけのある方は、家族と共に外出を兼ねて行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日おきの買い物や準備・片付け迄、利用者の出来る範囲での参加をしてもらい楽しみと役割がつながるよう支援している。また、月に1回ドライブレクや2カ月に1回のランチレク等外食の楽しみも実施している。	利用者と共にスーパーへ食材の購入に隔日出かけ、男性利用者は、買い物の運び役として積極的に参加している。食後各自で下膳や食器洗い等積極的な姿がみられた。職員も同じ食事を摂り、利用者のペースに合わせて介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぐし・きざみ・とろみ等摂食状態に合わせた食事形態で対応している。水分の摂取は、おやつ時・入浴時・散歩後等こまめに取れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけや、自己にて管理の困難な利用者には必要な部分での支援を行っている。また、訪問による口腔リハビリを利用する方も二名みえる。		

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを基本に「した時間での声かけや、夜間のトイレ誘導等を実施し失敗をしない安心を心掛け、自立にむけた支援をおこなっている。	一人ひとりの排泄の状況を確認し、利用者のパターンの把握と声掛け、誘導のタイミングを見て支援しており、失敗しない安心の排泄支援に取り組んでいる。男女の利用者があるため、特に排泄誘導の声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃、排便のチェックを行い、便秘の予防として食物繊維の多い食事や、レクを兼ねた運動、毎朝のヤクルトの提供などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの午後からの入浴ではあるが、夜間や毎日の希望にも対応している。重度の利用者のは、隣接しているシートステイの機械浴を利用して安心して入浴をしている。	家庭風呂で1対1の入浴支援をしている。ホームの生活は在宅からの生活の延長と考え、夜間の入浴にも希望に応じ対応したが、ホームの生活に慣れてくると昼間に入るのを好む利用者が多くなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄の生活パターンを崩さず休憩したい時には休んで頂ける様にしている。夜間においても、定期的な巡視により安心安全な睡眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が看護師である為、薬の管理・症状の変化に迅速な対応が出来、全職員にも情報提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶道の好きな利用者には、お茶を点てもらい皆で飲んだり、ベランダで花を育てたり等、個々の楽しみを支援している。また、ホームの畑の水やり等の役割を担ってもらい、収穫の喜びにもつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、一日おきの買い物への同行、月に1回の喫茶外食等、外出の機会を多く支援している。また、散歩コースには、地域の方のご厚意で休憩所の提供をして頂いている。	主な2つの散歩コースから、体調や希望で選び出かけている。相性等に配慮したグループに1～2名の職員が同行するドライブや遠足、喫茶店、毎月の食費から費用を捻出した外食等、閉じこもらない生活への支援を継続している。毎週家に帰り、家族と過ごす利用者もいる。	色々な外出は利用者の希望を聴き、計画的に行っているが、意見は口頭で聞き記録にない。さらには、希望を把握した様子や外出感想等記録に残し、満足度の記録になることも期待される。



岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にはお金を持って頂いてはいないが、遠足等の外出の際に個々にお小遣いとしてお渡しし、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人持ちの携帯電話を持って「見える方や、必要時は御家族の希望に応じやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは竹林が望められ、そこに来る鳥の鳴き声で季節や時間を感じることができる。また、風通しのよい広い空間では、畳コーナーソファ等、思い思いにくつろぐことができるように配慮している。	居間や食堂は広くゆったりした空間で1フロアに2つの食堂テーブル、立ち上がりしやすいゆったりしたソファ等全利用者が混乱無く1階2階との行き来ができるよう家具の配置や間取り等を同じにしている。居室窓の外には庭木の植え込みがあり、環境が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル・ソファ・畳のコーナーがあり、少し離れたところには談話室もあり、思い思いに過ごせるようになっている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い押入れの付いた居室は、思い出の品や使い慣れた常時使用するもの以外は収納され、車椅子でも移動できる空間があり、安全で快適な空間となっている。	室内はおちつきのある壁や床であり、椅子や机衣装引き出し、仏壇等持ち込まれ個別の部屋づくりが行われている。個人の力に配慮し引き出しにラベルをつけることで自分で洗濯物を収納することができるようになった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の「できること」「わかること」を活かし、可能な限り自立した生活が送れるように支援出来るようとめている。		

### 1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100452		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム 我家我家(武番館)		
所在地	岐阜県多治見市小泉町4-228		
自己評価作成日	平成21位年5月14日	評価結果市町村受理日	平成21年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100452&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171100452&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年5月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場があ る (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(貳番館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療・介護・生活のバランスのとれた運営」「残存機能の行使による認知症の予防」「生きる場所としての家の提供」を独自の理念とし、実践につなげている。	管理者と職員は、ケアするときは一人ひとりの利用者を自分の身内、自分だったらと意識付けし、残存機能の行使や楽しい生活の組み立てで、個々の生活を支える理念の実施に努めている。	理念にあげている利用者が地域の中で暮らす支援の実施には地域役員の方々の理解と認識の共有、協力が大切である。更には、運営推進会議を通して、の取り組みが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム敷地内に通学路があり、地域の子供達や住民の方との挨拶を日常的に交わすことにより親しみのある関係を作り上げている。	食材の買い物、日常の散歩、子供の通学路、福祉教育での学生訪問、事業所の夏祭り等多くの機会を作り、利用者が地域住民と出会うきっかけ作りに努めている。	ホームからの働きかけは積極的であるため、更には、近隣とのお付き合い、地域役員を通じての地域からの協力等が得られるように取り組まれることも期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小・中学校への学習の場としての提供や、資源回収の貢献等により、地域との関わりを大事にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た報告は、ミーティング等で話し合いをしサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は3～4ヶ月に1回開催されている。地域役員や行政、地域包括支援センター職員、利用者家族、ホーム関係者がメンバーとなっているが、実際の参加は職員や一部の家族に限られている。	利用者が地域の中で暮らすには地域の理解と協力が必要なため、ホームの運営状況や課題、行事案内や協力依頼等テーマを検討し、行政や地域の役員が参加しやすく日程調整し、2ヶ月に1回の開催になるよう取り組まれたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が開催する事業所会議等を通し行政との連携を密にすると共に、日頃から担当者との情報交換によって得られたものをサービスの向上に役立てている。	利用者のホーム利用にあたり、相談や連絡は細かく行っている。市主催の会議に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より鍵をかけない取り組みを実践しており、不穏時はスタッフが同行を見守りし気持ちが和らぐようにしている。	身体拘束、虐待については定期的に学習を行っている。利用者の安全への配慮から、人手の要る入浴介助時だけ施錠することはあるが、基本は開放的な環境を提供している。夜間の不穏時には共に過ごし、気分が落ち着くまで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なミーティングの開催や、同法人内での勉強会にて学ぶ機会を持っている。		

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや勉強会において日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際は、説明後であつても随時説明に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議、意見箱といった機会を活用しミーティングで話し合うようにしている。	運営推進会議に参加する家族は限られているため、できるだけ家族のホーム訪問時や電話連絡時に、家族からの意見をたずねており、出された意見は会議等で検討している。	ホームたよりの発刊をきっかけに、ホームからの情報提供に加え家族からの意見をもらう様式を取り入れる等工夫を重ね、家族が意見を出しやすい環境づくりに取り組まれない。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや毎日の申し送り時に意見や提案を聞く場を設けている。	今年度より、年2回の職員の個別面談を計画し、第1回を行った。会議等で職員が意見を出しやすいように日常のコミュニケーションを図れるよう管理者・職員で共に取り組んでいる。出た気づきは幹部会議に報告し検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回の管理者会議や年2回の職員との面談において個々の職員の希望、意見等を理事に伝へやりがいのある職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会の他、定期的に法人内で広い分野のテーマで研修会が行われている。外部研修の費用は法人負担で、研修内容は報告会で共有している。又、職員の自己顕示意識も高く、専門資格取得者も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催の認知症介護実践者研修等に参加等を行い得た情報を、素に勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションに時間をかけ、意見・要望を把握し今後のケアへの役立へとしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細な意見にも耳を傾け、相談の受け付けは随時実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	検討する事例が発生した際、御本人・御家族からの意見に親身に傾聴し、適切な解決方法を共に模索出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の気持ちを尊重し、人生の先輩として接することで介護・生活を通して支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに来られる機会を増やし、御本人と御家族との絆を大切に、御家族と共に参加して頂ける取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人の面会や、一緒に食事をして頂いたり、これまでの関係が途切れない環境作り心掛けています。	これまでも利用者の友人の訪問があり、共に食事をしたり、ホームのレクリエーションを楽しんだり、現在も訪問が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握した席作りや、作業区分をし、適した活躍の場での支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時であっても面会に伺ったり、新たな担当者より情報提供をして頂き関わりを持つようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員には常に言葉使い、本人本位を念頭に置き、御本人の大切な想いを尊重した支援をするように指導している。	入居時に利用者や家族からの情報をできる限り収集し、個人の理解に役立てている。言葉が出ない、表現がうまくいかない場合も表情や態度から、快、不快を読み取るように本人本意を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの聴き取り、御本人からのお話等を生活の中の会話から把握し、職員同士が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを作成し、その方の現状に対し記録に残し、職員全員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、入居後に御本人や御家族の意見を御聞きし、職員全員参加のケア会議で状態に基き話し合って介護計画を作成している。	入居時に入居後の暮らし方の希望を確認し、その後も、ホームの生活の中で本人、家族、担当医師、職員から広く情報を集め、会議にあげ記録にも残して皆の共有情報とするよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の些細な事であっても、日常の気づきとして記録に残すようにし、工夫した事など次の実践に活かせる取り組みをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者が看護師で常時健康管理を行い、従来の掛かり付け医への受信希望者には通院支援をしている。また、隣接のショートステイとの連携により重度の利用者の入浴やレクリエーション等に柔軟に支援している。		

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の散歩での声かけ、小・中学校の学習の場の提供、公民館での行事の参加をし、地域とのなじみの関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医専門の法人理事を主治医に持っており月2回の往診があり体調管理を図っている。また、他医への受診は御家族の希望により職員が通院支援をしている。	法人の理事が全利用者の主治医であり、定期的な健康管理が行われている。他の医療機関への受診は家族が基本的に行うとしているが、都合が悪く支援が必要な場合は職員で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師である為常時、健康管理を行っており最速な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、御家族や病院の医師、ソーシャルワーカーとの情報交換を密に行い早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期においてその都度御家族等の要望を確認しながら医師をまじえた話し合いを進め、その結果を踏まえ対応していけるよう職員への共有を図っている。これまでに2人の看取りが行われた。	これまでに2名の看取りを経験している。家族や医師、職員で状態の変化に合わせて、方針を確認しながらケアを提供した。大きな混乱も無く職員の精神的支援も行えた。大きな混乱もなく、職員の精神的支援も行うことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し確認をすると共に、定期的な勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、利用者も参加した消防訓練を定期的実施している。運営促進会議を通じて地域の住民への協力も依頼している。	防災訓練は定期的開催し、利用者の誘導訓練も実施している。ホームへの消防車進入道路も確認済みで、避難空地は目前にあるが、地域からの協力が十分に得られる状態にない。	防災訓練は実施されているが、近隣の民家が接近していたり、屋敷周りには植え込みの木々も多い。災害時は地域との協力が大切になるため、運営促進会議を通し地域の協力が具体的な参加に結びつくよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉使いの他本人本位を念頭に置き利用者の大切な想いを尊重した支援を常に指導している。	職員が利用者一人ひとりを大切に接していることは、言葉使いやケアの様子から感じられる。男性としての誇り、女性らしさの整容を大切にと細かく配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物・散歩等日常生活の中で利用者の希望に添うよう努めると共に、「自分だったら」「親だったら」と本人の思いを出来る限り汲み取ったサービスが提供できるよう検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや利用者の体調に大きな支障が生じない範囲において利用者の「その人の時間」を大切にしながら見守り姿勢で支援している。夕食に飲酒を楽しむ利用者や、個人の携帯電話を所持使用する利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回ホームへ理容師の方がみえ御家族と御本人の希望を御聞きし、利用して頂いている。また、行きつけのある方は、家族と共に外出を兼ねて行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日おきの買い物や準備・片付け迄、利用者の出来る範囲での参加をしてもらい楽しみと役割がつながるよう支援している。また、月に1回ドライブレクや2カ月に1回のランチレク等外食の楽しみも実施している。	利用者と共にスーパーへ食材の購入に隔日出かけ、男性利用者は、買い物の運び役として積極的に参加している。食後各自で下膳や食器洗い等積極的な姿がみられた。職員も同じ食事を摂り、利用者のペースに合わせて介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぐし・きざみ・とろみ等摂食状態に合わせた食事形態で対応している。水分の摂取は、おやつ時・入浴時・散歩後等こまめに取れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけや、自己にて管理の困難な利用者には必要な部分での支援を行っている。また、訪問による口腔リハビリを利用する方も二名みえる。		



岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを基本に「した時間での声かけや、夜間のトイレ誘導等を実施し失敗をしない安心を心掛け、自立にむけた支援をおこなっている。	一人ひとりの排泄の状況を確認し、利用者のパターンの把握と声掛け、誘導のタイミングを見て支援しており、失敗しない安心の排泄支援に取り組んでいる。男女の利用者があるため、特に排泄誘導の声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃、排便のチェックを行い、便秘の予防として食物繊維の多い食事や、レクを兼ねた運動、毎朝のヤクルトの提供などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの午後からの入浴ではあるが、夜間や毎日の希望にも対応している。重度の利用者のは、隣接しているシートステイの機械浴を利用して安心して入浴をしている。	家庭風呂で1対1の入浴支援をしている。ホームの生活は在宅からの生活の延長と考え、夜間の入浴にも希望に応じ対応したが、ホームの生活に慣れてくると昼間に入るのを好む利用者が多くなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今迄の生活パターンを崩さず休憩したい時には休んで頂ける様にしている。夜間においても、定期的な巡視により安心安全な睡眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が看護師である為、薬の管理・症状の変化に迅速な対応が出来、全職員にも情報提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶道の好きな利用者には、お茶を点てもらい皆で飲んだり、ベランダで花を育てたり等、個々の楽しみを支援している。また、ホームの畑の水やり等の役割を担ってもらい、収穫の喜びにもつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、一日おきの買い物への同行、月に1回の喫茶外食等、外出の機会を多く支援している。また、散歩コースには、地域の方のご厚意で休憩所の提供をして頂いている。	主な2つの散歩コースから、体調や希望で選び出かけている。相性等に配慮したグループに1～2名の職員が同行するドライブや遠足、喫茶店、毎月の食費から費用を捻出した外食等、閉じこもらない生活への支援を継続している。毎週家に帰り、家族と過ごす利用者もいる。	色々な外出は利用者の希望を聴き、計画的に行っているが、意見は口頭で聞き記録にない。さらには、希望を把握した様子や外出感想等記録に残し、満足度の記録になることも期待される。

岐阜県 グループホーム 我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にはお金を持って頂いてはいないが、遠足等の外出の際に個々にお小遣いとしてお渡しし、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人持ちの携帯電話を持って「見える方や、必要時は御家族の希望に応じやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは竹林が望められ、そこに来る鳥の鳴き声で季節や時間を感じることができる。また、風通しのよい広い空間では、畳コーナーソファ等、思い思いにくつろぐことができるように配慮している。	居間や食堂は広くゆったりした空間で1フロアに2つの食堂テーブル、立ち上がりしやすいゆったりしたソファ等全利用者が混乱無く1階2階との行き来ができるよう家具の配置や間取り等を同じにしている。居室窓の外には庭木の植え込みがあり、環境が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル・ソファ・畳のコーナーがあり、少し離れたところには談話室もあり、思い思いに過ごせるようになっている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い押入れの付いた居室は、思い出の品や使い慣れた常時使用するもの以外は収納され、車椅子でも移動できる空間があり、安全で快適な空間となっている。	室内はおちつきのある壁や床であり、椅子や机衣装引き出し、仏壇等持ち込まれ個別の部屋づくりが行われている。個人の力に配慮し引き出しにラベルをつけることで自分で洗濯物を収納することができるようになった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の「できること」「わかること」を活かし、可能な限り自立した生活が送れるように支援出来るようとめている。		